

## GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀・集会宣言

遺伝子組み換え(GM)作物が本格的に栽培され始めてから約四半世紀が経ちました。多国籍企業が食料支配に向けて開発したこの作物は、世界中の農民、消費者の闘いを前に、行き詰まりを呈してきました。しかも除草剤に枯れない雑草が広がり、殺虫毒素で死なない害虫が増え、農薬の使用量が増え、除草剤グリホサートによる健康被害が拡大してきました。もはやGM 作物・食品には未来がないことは明らかになりました。

しかし、GM 食品・作物を推進してきた研究者・機関や企業などは、新たにゲノム編集技術など新植物育種技術での開発を推し進め、政府もまた、GM 作物の二の舞を避けるため規制をせず、食品表示までさせないように動きました。またGM 食品表示制度まで改定して、ほとんどの食品で「遺伝子組み換え」と表示させず、消費者に選択させないように変更しました。

さらには、ゲノム編集で開発した「高GABA トマト」の届出が2020 年末に厚生労働省で受理され、届け出たサナテックシード社による苗の無償提供が間もなく行われます。このままでは遺伝子組み換え作物は復活し、ゲノム操作作物・食品開発は進み、世界規模で種子の販売が進み、農家は栽培を強いられ、消費者は知らないうちに食べさせられるという状況になります。

それに対して私たちは、地域から対抗する取り組みを行っていきます。それをもたらすものこそ GMO フリーゾーンの拡大です。遺伝子組み換え作物・食品だけでなく、ゲノム編集食品を拒否し、作らせない、流通させない、食べないという取り組みを日本中に広げていくことで、日本の食と農と、私たちの食卓を守っていくことが極めて大事な状況になってきました。

本日、琵琶湖とともに豊かな自然と共生する食と農を追求してきた滋賀の地に集まった私たちは、世界の人々とともに、GM 作物・ゲノム編集作物の栽培拒否を貫き、GMO フリーゾーンを拡大していきます。GMO フリーゾーンの輪を広げることで、地域の農と食文化を守り、食の安全と生態系を守ります。

2021年3月19日

集会参加者一同